

UBEが25/3期業績予想を修正 ―格付への影響は限定的

以下は、UBE株式会社（証券コード：4208）が25/3期業績予想の下方修正とベーシック事業の構造改革の決定を発表したことに対する、株式会社日本格付研究所（JCR）の見解です。

■見解

- (1) 当社は28日、25/3期通期業績予想の修正を発表した。これによれば、同期の営業利益は160億円（前回予想270億円）、経常利益は200億円（同370億円）、最終利益は175億円の赤字（同295億円の黒字）となる見込みである。分離膜やセラミックスをはじめとするスペシャリティ事業、機械のサービス事業の業績は堅調に推移しており、UBE三菱セメント（持分法適用会社）も値上げ効果などでグループ業績に貢献する。ただ、カプロラクタムやナイロンポリマーはアジア市場における事業環境が一段と悪化しており、当初想定に比べ採算悪化が避けられない。こうした状況を踏まえ当社では、前2製品を含むベーシック事業の構造改革（国内外設備の停止による縮小・撤退）を決定。これに伴い、25/3期において減損損失等を約350億円計上することとなった。なお、当該事業に係る設備の解体撤去費用（現時点で約300億円の見込み）は、28/3期以降、数年間にわたり計上される予定である。
- (2) JCRでは1月17日に当社の長期発行体格付を「A」、格付の見通しを「安定的」と公表している。特別損失の計上を含め、今回発表された業績の下方修正幅や最終赤字額はやや大きなものとなる。ただ、JCRでは直近の格付見直しにおいて、近時の状況などから従前の業績予想に対しては下押し圧力がかかっていること、ベーシック事業における構造改革の前倒しの可能性などを、ある程度考慮していた。また、今回の決定で同事業の構造改革に目途が付き、今後の当社業績の安定性が向上すると考えられることや、財務面でも一定の耐久力があることなどから、今回の当社発表による格付への影響は限定的と判断している。今後、事業ポートフォリオのスペシャリティ化を進め、早期に業績を成長軌道に戻せるか注目していく。

（担当）殿村 成信・藤田 剛志

【参考】

発行体：UBE株式会社

長期発行体格付：A

見通し：安定的

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であると問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかなるものを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であると問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.

信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル